

シンポジウム ③「木・林・森、そして布留里は今」

日時 2006年6月11日(日) 14:15~16:00

場所 天理市文化センター

基調講演 「春日山原始林に学ぶ」 森本喜興氏(グリーンあすなら理事長)

パネリスト 森本喜興氏

長谷川佳孝氏(天理教宮繕部造園班)

久保田 有氏((財)日本自然保護協会自然観察指導員)

想ワレ(女性フォーク・デュオ)

コーディネーター 中島欣成(環境市民ネットワーク天理事務局長)

●森本喜興氏

温暖化防止に向け、住みなれた里山を立派な森にしていくことは大切。しかし、里山の現状は、スギ・ヒノキの植栽林の放置、耕作地跡の雑草の繁茂、竹の大繁殖などが目立っている。何百年か先、立派な森にするにはどのような木を植えれば良いのか、皆様と共に考えていきたい。

私が所属する「グリーンあすなら」は、1988年、環境庁(現在、環境省)の自然環境保全基礎調査「巨樹・巨木林調査」のフォローアップ調査の一環として、2002、2003年に春日山原始林の調査を実施した。実際の調査は春日山原始林だけでなく、春日山全体を調査した。

春日山原始林は春日大社の鎮守の森として、1000年以上にわたって住民の立ち入りや樹木の伐採を禁じてきた。現在の春日山は、約400ヘクタールだが、1956年、春日山原始林

として国の天然記念物に指定されたのは約300ヘクタール。春日山は南北に稜線があり、西斜面の麓に春日大社が、東斜面はスギの巨木林になっている。このため東斜面は天然記念物指定から除外された。このスギの巨木林は、主に「16世紀末、豊臣秀吉がスギ1万本植林したもの」という記録が参考になる。

調査資料の28樹種の巨木(幹周り3m以上の樹木)の本数を見ていただくと、スギ902、モミ214、ウラジロガシ87、ツブラジイ75、ツクバネガシ48、イチイガシ45、アカガシ41、ツガ28、ヤマザクラ8、イヌシデ6、カヤ6、ケヤキ5、ムクロジ5など全体で1498本です。春日山原始林だけに限ると、スギは304本、モミは174本しかない。

春日山原始林の植生は、遷移が極相を呈している状態。そこで、里山に植栽する場合の樹種は、スギ、モミ、ウラジロガシ、ツブラジイ、ツクバネガシ、イチイガシ、アカガシ、ツガまでぐらいと考える。今まで里山の植栽種としてはスギ、ヒノキが中心だったが、春日山ではヒノキの巨木は0本。奈良公園平坦部でも2本と大変少ない。大峰山系のよく日の当たる尾根筋でも、ヒノキの巨木は10本以下。このことから、里山にヒノキを植えることは除外すべきだと考える。カシ類は、関西地方ではツバラジイが最も良く生育するといわれている。ウラジロガシは東海地方に、アカガシ、イチイガシは四国から九州に、ツクバネガシは山地に生えるとされている。しかし、極相の春日山原始林では気候的な緩衝作用が生じ、多種類のカシが生育していると思われる。

●長谷川佳孝氏 演題【都市環境の中での最も身近な木・街路樹、並木】

要点 ①都市環境の中での最も身近な木となっているイチョウ。

②大阪御堂筋のイチョウ並木と東京絵画館前のイチョウ並木。

③天理市内の親里大路(国道25号線)と国道169号線のイチョウ並木。

④並木、街路樹の果たす役割、意味、防火、区画、遮光、景観保持、ランドマーク、心理的安らぎ等

⑤並木、街路樹の管理、育成の現状と問題点、予算、市民感情、鳥害(糞害)、落ち葉等

⑥今後の取り組み方

●久保田有氏 演題【布留の里の緑について考える ～浪速の街から学ぶこと～】

要点 ①布留の里の緑について

青垣の山の麓に広がる布留の里 / 春日山から三輪山に続く山並み / 石上神宮の杜と布留川 / 布留の里で始まった歴史

②天理の街の並木について

天理の街にイチョウ並木を / イチョウが天理市の木に / 最近の並木のようす

③浪速の街と並木

浪速の街の再開発と御堂筋の建設 / 御堂筋のイチョウ並木 / 中之島のケヤキ並木

④並木の管理の違い

自然の樹形と強剪定による樹形 / 並木の根元は / 満身創痍の並木 / 落ち葉の処理

⑤緑豊かな布留の里にするには

まずは、瀕死の並木を生き返らせることから / 緑を求めて人々が集まる憩いの街へ



スギとヒノキが混生する植林地（左）と、和爾下神社境内地（天理市内）のツブラジイの巨木とその板根（右）。